ア）海上工事として、グラブ浚渫船（硬土盤用）により、特定重要港湾における航路又は泊地の浚渫を施工した工事

また、当該施工実績が国土交通省が発注した工事のうち入札説明書に示すものに係る施工実績である場合にあっては、評定点合計が入札説明書に示す点数未満のものを除く。

③　特定建設工事共同企業体の代表者以外の構成員にあっては、１人の者が、平成８年４月１日以降に元請けとして、完成・引渡しの完了した下記に掲げる工事の施工経験を有する者であること（共同企業体の構成員としての経験は、出資比率が20%以上の場合のものに限る。）。

ア）海上工事として、グラブ浚渫船により航路又は泊地の浚渫を施工した工事

なお、当該施工実績が国土交通省が発注した工事のうち入札説明書に示すものに係る施工実績である場合にあっては、評定点合計が入札説明書に示す点数未満のものを除く。

④　監理技術者にあっては、監理技術者資格者証及び監理技術者講習修了証を有する者又はこれに準ずる者であること。

⑹　上記１に示した工事に係る設計業務等の受託者又は当該受託者と資本若しくは人事面において関連がある者でないこと。

⑺　競争参加資格確認申請書（以下「申請書」という。）及び競争参加資格確認資料（以下「資料」という。）の提出期限の日から開札の時までの期間に、関東地方整備局から「地方整備局（港湾空港関係）所掌の工事請負契約に係る指名停止等の措置要領」（昭和59年３月31日付け港管第927号）に基づく指名停止を受けていない者であること。

⑻　会社更生法に基づき更生手続開始の申立てがなされている者又は民事再生法に基づき再生手続開始の申立てがなされている者（上記⑶の再決定を受けた者を除く。）でないこと。

⑼　入札に参加しようとする者の間に資本関係又は人的関係がないこと。（資本関係又は人的関係がある者のすべてが共同企業体の代表者以外の構成員である場合を除く。）（入札説明書参照）

⑽　工事全般の施工計画及び企業の高度な技術力（ＶＥ提案）が適正であること。

⑾　警察当局から、暴力団員が実質的に経営を支配する建設業者又はこれに準ずるものとして、国土交通省発注工事等からの排除要請があり、当該状態が継続している者でないこと。

３　総合評価に関する事項

⑴　落札者の決定方法　入札参加者は「価格」及び「企業の高度な技術力（ＶＥ提案）」、「工事全般の施工計画」並びに「施工体制」をもって入札に参加し、次の①、②の要件に該当する者のうち、⑵の総合評価の方法によって得られた数値（以下、「評価値」という。）の最も高い者を落札者とする。

①　入札価格が予定価格の制限の範囲内であること。

②　評価値が、標準点を予定価格で除した数値（以下、「基準評価値」という。）に対して下回らないこと。

⑵　総合評価の方法

①　「標準点」を100点とし、「施工体制評価点」の最高点を30点、及び「加算点」の最高点を60点とする。

②　「加算点」の算出方法は、予定価格の制限範囲内の入札参加者のうち、下記㋐、㋑の評価項目毎に評価を行った結果、得られた「評価点の合計値」が、最も高い者に60点の「加算点」を与える。その他の者は「評価点の合計値」に応じ按分して求められる点数を「加算点」として与える。なお、加算点は小数位３桁（４位四捨五入）とする。また、「施工体制評価点」は下記㋒の評価項目を評価して算出する。なお、「施工体制評価点」の低い者に対しては「加算点」を減ずる場合がある。

㋐　企業の高度な技術力（ＶＥ提案）（詳細は、入札説明書による。）

㋑　工事全般の施工計画（工事全般の施工計画及び当該工事における施工上配慮すべき事項等の技術的所見）

㋒　施工体制（施工体制評価点）

③　価格と価格以外の要素がもたらす総合評価は、入札者の「標準点」と、「加算点」及び「施工体制評価点」の合計を、当該入札者の入札価格で除して得た評価値をもって行う。

④　②㋐、㋑、及び㋒の評価項目について、共通仕様書、特記仕様書及び関係法令を遵守し、一般的な施工機械により施工及び管理する方法を用いて作業を行う者で、入札説明書等に記載された要求要件を実現できると認められる場合に標準点（100点）を与え、さらに②㋐のＶＥ提案、②㋑の施工計画、及び②㋒の施工体制の内容に応じて、それぞれ加算点及び施工体制評価点を算出し与える。

⑶　評価の基準　⑵②㋐、㋑、及び㋒の評価項目の詳細は入札説明書による。

⑷　受注者の責により、入札時のＶＥ提案及び工事全般の施工計画の評価内容が実施されていないと判断された場合は、ペナルティとして当該工事成績評定を減ずることとする。

なお、受注者の責によらない場合とは、災害又はその他特別な事情がある場合等のことをいい、発注者と受注者の協議により決定する。（詳細は、入札説明書による。）

⑸　平成21年３月１日から平成22年６月11日の間に、上記１⑻の試行対象工事と明記されたもののうち工事種別が「港湾等しゅんせつ工事」である工事において、当該工事成績評定点が65点未満であると当局から通知された工事が１件以上あるときは、本工事の評価点を10点減じることとする。

４　入札手続等

⑴　担当部局　〒231―8436 横浜市中区北仲通５―57横浜第２合同庁舎　関東地方整備局総務部経理調達課契約管理係　電話045―211―7413

⑵　入札説明書の配付期間、場所及び方法　入札説明書等を入札情報サービスより配付する（入札情報サービスＵＲＬ　http://www.pas.ysk.nilim.go.jp/）。

配付期間は平成22年３月31日から平成22年６月11日まで（最終日は入札書受付締切予定時刻である14時00分）。

ただし、上記配付方法による入手ができない場合は、あらかじめ⑴に掲げる担当部局に連絡を行った上で、⑵①及び②に掲げる期間、場所にて配付する。

①　配付期間：平成22年３月31日から平成22年６月11日までの土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、９時15分から18時00分まで（最終日は入札書受付締切予定時刻である14時00分）。

②　配付場所：⑴に同じ。

⑶　申請書及び資料の提出期間、場所及び方法

電子入札システムにより提出する場合は、平成22年３月31日から平成22年４月30日までの土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、９時00分から18時00分までに行うこと。ただし、平成22年４月30日は９時00分から12時00分までとする。なお、申請書及び資料が３ＭＢを超える場合の提出方法等については、入札説明書による。また、発注者の承諾を得て持参する場合は、平成22年３月31日から平成22年４月30日までの土曜日、日曜日及び祝日を除く毎日、９時30分から18時00分まで。ただし、平成22年４月30日は９時30分から12時00分まで。上記⑴に同じ。

なお、電子入札システムにおける資料の受付票は、資料の受信を確認したものであり、資料内容を確認したものではない。

⑷　入札、開札の日時及び場所並びに入札書の提出方法　入札書は、電子入札システムにより提出すること。ただし、発注者の承諾を得た場合は、紙により持参又は郵送等すること。

①　電子入札システムによる入札の締め切りは、平成22年６月11日14時00分。

②　紙により持参の場合には、平成22年６月11日14時00分。関東地方整備局総務部経理調達課調達係まで持参すること。

③　郵送による入札書の受領期限は、平成22年６月11日14時00分。郵送先は、関東地方整備局総務部経理調達課。

開札は、平成22年６月14日16時20分関東地方整備局入札室にて行う。

５　その他

⑴　手続きにおいて使用する言語及び通貨

日本語及び日本国通貨に限る。

⑵　入札保証金及び契約保証金

①　入札保証金　免除

②　契約保証金　納付（保管金の取扱店　日本銀行横浜中代理店（横浜銀行本店））ただし、利付国債の提供（保有有価証券の取扱店　日本銀行横浜中代理店（横浜銀行本店））又は金融機関若しくは保証事業会社の保証（取扱官庁　関東地方整備局）をもって契約保証金の納付に代えることができる。また、公共工事履行保証証券による保証を付し、又は履行保証保険契約の締結を行った場合は、契約保証金の納付を免除する。